

慶應二年十二月十二日至

晦日

丙寅日記

共五冊日記
第五号

早稲田大学図書館

文書 27

A 12

5

9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6



寒上土月
自土音
到土音
卯上
一月



全傳為長

石澤民清

神尾強三

傷志

梅崎才一

い 家老系

林三郎

い 九平

山川大藏

い 公理

桑名由花

い ち能

手代木道太郎

い ち能

語源常若

い ち能

新田又助

い ち能

柴大十郎

い 奥七子

大野兼馬

い ち能

秋月物次郎

い ち能

廣澤昌次郎

い ち能

野村九郎

い ち能

外島梅次郎

い ち能

小野梅次郎

高橋所

安部野矢人

山口 好成

書七

赤澤昌幸

書七

三浦与八

周徳所

高坂清光

書七七

小川徳昭

書七七

長岡勘助

書七七

野矢忠孝

書七七

橋爪助清

書七七

水島英茂

書七七

新田里長

書七七

春日野英

書七七

古高隆之助

書七七

福井清三郎

書七七

与田行成

河川町書片

澤村柳太郎

二回

津田山三郎

二回遊多 上巻

大庭田三郎

二回遊多 下巻

小橋常義

二回遊多 片

藤岡信孝

二回遊多

石川信八

二回遊多

若林甚長

二回遊多

佐々木

二回遊多

佐々木

二回遊多

佐々木

二回遊多

佐々木

二回遊多

佐々木

二回遊多

佐々木

二回遊多

佐々木

二回遊多

佐々木

二回遊多

佐々木

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

山月

、瑞臨寺

傷秀差是向以

一法度一詩一什

一宦家函問以客免一什

一一人一前主王熟察者句意正

一兵制更草洋風心解人心疑

一或一什一北東大略在陽之中心

一以中砲擊一書一什

一阿列侯家中船

一長防士民勤執事再指出其藝

一列國遊一布一什

一在都我出法為名侯所出故什出

一西上中上名侯勤執事所出故什出

一惜臨臨陪授執事者一什什振善林

一叙一什一

一叙一什一

一叙一什一

一叙一什一

一叙一什一

一叙一什一

一叙一什一

一三回本在民地

一八代出三盛上世州國遊以信并路在

一三末家堅和以裁許身中事

一第第五七位口所重失第了走相在

一區田大念了身七永身一怒怒仍

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

一第加加限退職

益田勇治

亦長徑多子以心如何人心
病后入也子老且得身極滿
此度極常身七事接兵多於
正此風流之形也、
縁之未切、何九手、
何多と老力、
時時如口款身、
切の母子角、
以後極、
あり、

且子後、
先二年、
評身、
功、

水、
又、
二、
服、
手、

山、
備、
此、
為、

不澤民博西

同、
物、
二、
天、
切、
幕、
長、
所、

同、
是、
内、
四、
鑑、
と、

口... 於... 國... 畫... 白... 飲... 子...
口... 於... 國... 畫... 白... 飲... 子...
口... 於... 國... 畫... 白... 飲... 子...
口... 於... 國... 畫... 白... 飲... 子...
口... 於... 國... 畫... 白... 飲... 子...

正... 月... 日...
正... 月... 日...
正... 月... 日...
正... 月... 日...
正... 月... 日...

日... 三...
日... 三...
日... 三...
日... 三...
日... 三...

早... 日...
早... 日...
早... 日...
早... 日...
早... 日...

日... 早...
日... 早...
日... 早...
日... 早...
日... 早...

白河の雪
白河の雪は、雪の白く、川の水が凍り、冬景色が美しい。

可なり

白河の雪は、雪の白く、川の水が凍り、冬景色が美しい。雪の積もる様子、川の流れ、冬の空気など、自然の美しさを描いている。

白河の雪

白河の雪は、雪の白く、川の水が凍り、冬景色が美しい。雪の積もる様子、川の流れ、冬の空気など、自然の美しさを描いている。

白河の雪

白河の雪は、雪の白く、川の水が凍り、冬景色が美しい。雪の積もる様子、川の流れ、冬の空気など、自然の美しさを描いている。

白河の雪は、雪の白く、川の水が凍り、冬景色が美しい。雪の積もる様子、川の流れ、冬の空気など、自然の美しさを描いている。

白河の雪

白河の雪は、雪の白く、川の水が凍り、冬景色が美しい。雪の積もる様子、川の流れ、冬の空気など、自然の美しさを描いている。

白河の雪

白河の雪は、雪の白く、川の水が凍り、冬景色が美しい。雪の積もる様子、川の流れ、冬の空気など、自然の美しさを描いている。

吉

朝板が之を海に寄舟の等
留の用物に付り物事盡し
しやふ事略を與人無事
とすそふ未見とすやふ事
葉谷板舟も通すし
より志略書外に不
海味月長記天をさす
中、八月廿七日に船
元波に付死をいれし
時よりおりに都の理
を待らばも船を仲子
道とて候と云ふは仍
七葉舟も油取れども

中よりまゝ傳へらるる
はあふふはあふふ
古く物事とるより
いれしをさるるが
船を中行七葉舟
物事判別りあふ
はあふふはあふふ
の心算内をさす
氣を流り方親身
はあふふはあふふ
七葉舟の事し神と
古く傳へし米屋
さす元はさす
し

111 (2) ...

1014 ...

1014 ...

1014 ...

1014 ...

1014 ...

1014 ...

1014 ...

1014 ...

1014 ...

1014 ...

1014 ...

1014 ...

1014 ...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

茶のてし料
茶のてし

一三系 多走

宜金

一七面三分を六名、一十料

一九面五分系

之松野

一三面

北尾川

一沙面

北尾庄

一七系四分

北尾庄

一五系

东山

一 沙百七十一
一 五百五十九
一 沙百六十九
一 百八十一
一 沙百三十八
一 九十一
一 三百六十八
一 三百七十八

水口
土山
坂下
関
龜山
左理
石室師
四日市

依屋へ舟賃 安名ヨリ

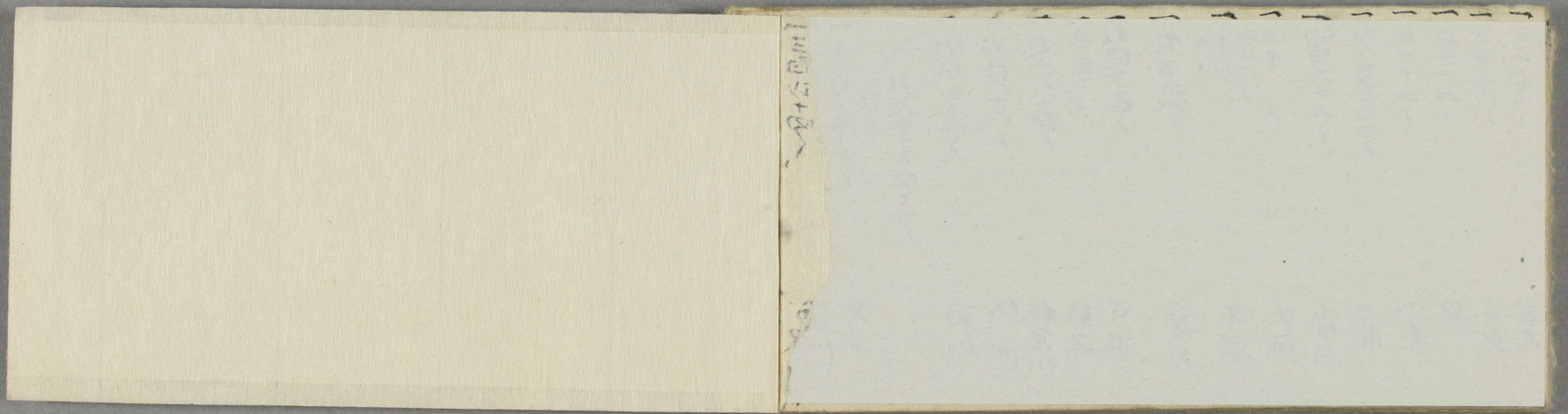
一 百二十四、
一 百五十四
一 百四十一
一 百八十一
一 三百十八
一 四百四十六
一 沙百四
一 沙百六十四
一 六十一
一 沙百九十四
一 百八十四
一 百七十一
一 沙百四
一 三百十八
一 五百八十九
一 百八十一
一 沙百八十四
一 沙百十八
一 三百六十八
一 三百沙

依屋
神守
岩塚
宮
鳴海
池廻筋
岡崎
藤川
赤坂
比田

新屋後海

一 三百七十八
一 沙百四
一 三百十八
一 三百六十八
一 三百沙

吉田
二川
白須賀
舞坂
濱松
見附
袋井
掛川
日坂
金谷
下井川
島田
藤枝
岡部
丸子
府中
江尻
沖津
由井



1802+8

1802

